

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震について

謹んで地震・津波災害のお見舞いを申し上げます。

去る3月11日に発生した東北地方太平洋沖を震源とする地震により被害を受けられ、また、お亡くなりになられた方々、避難生活を余儀なくされている多くの被災された皆様には、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

この、マグニチュード9.0という世界最大級の巨大地震により、地殻変動に伴う災害のみならず、地震により発生した大津波による被害の甚大さ、想像を超えた惨状を目の当たりにいたし、ただ言葉を失うばかりであります。

未だに行方の分からない方々も多数おられ、ご家族、ご親戚またご友人の皆様のご心痛もいかばかりかと推察いたします。安否の判明されていない方々のご無事を、心からお祈り申し上げます。

今なお、余震とは別に各地においても地震が続発しているほか、原子力施設における火災・爆発並びに放射性物質の流出、更にこのことに伴う電力不足による計画停電等、その被害と影響の範囲はますます増大しております。

政府や自治体では緊急の救援・支援体制が構築されておりますが、日本土地家屋調査士会連合会におきましても既に災害対策本部が立ちあげられ、専門分野からの支援体制等を含めた準備・検討が進められております。当会におきましても、同連合会と協力して、被災者の皆様方への支援を進めて参りたいと思っております。

平成23年3月16日

東京土地家屋調査士会

会長 竹内 八十二